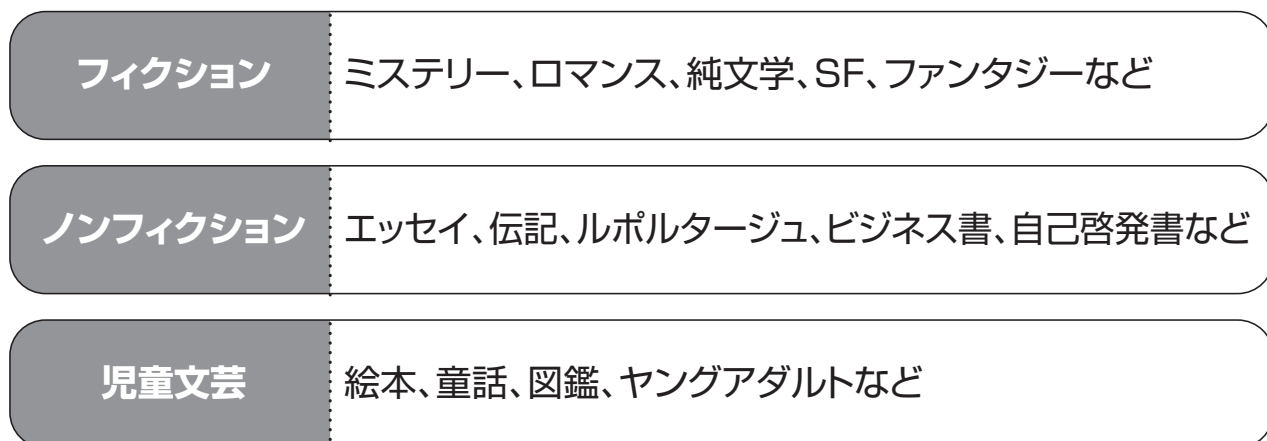
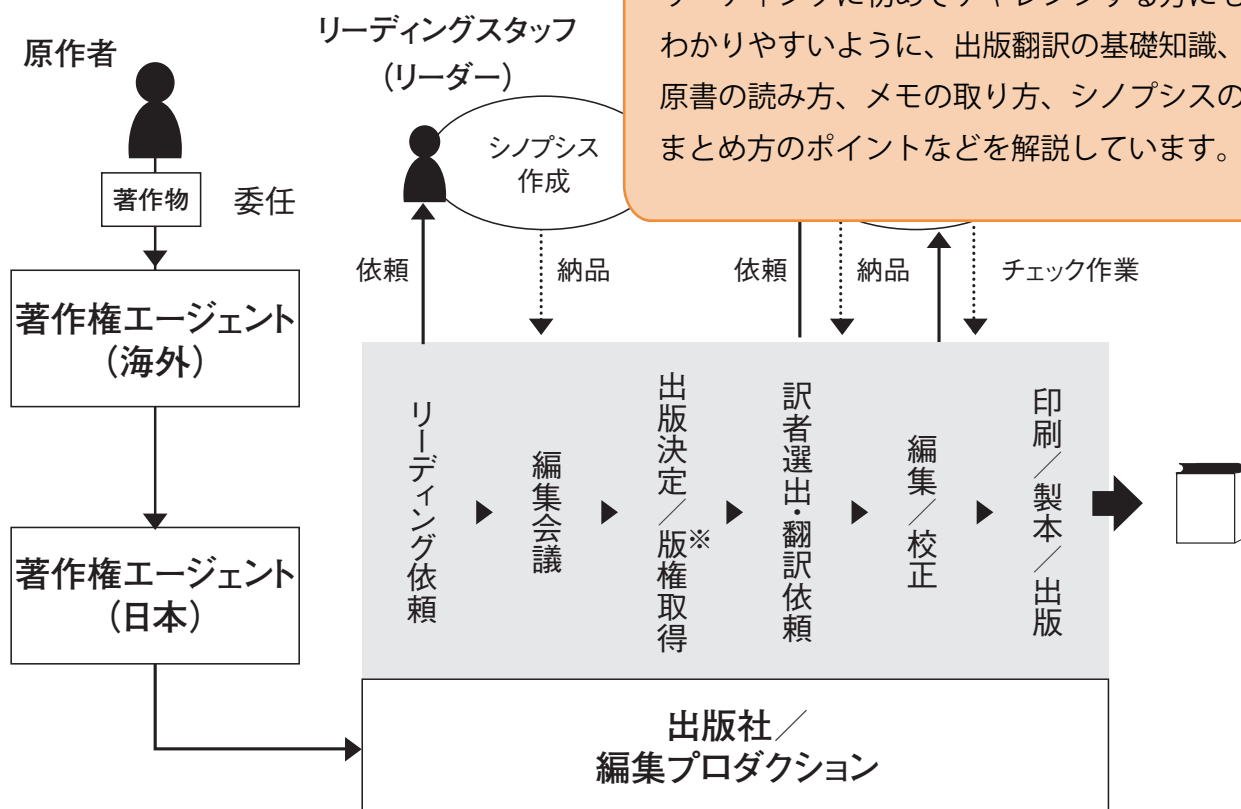


## ■ 出版翻訳の基礎知識

出版翻訳とは、海外の著作物を日本で出版することを目的に行われる翻訳です。出版翻訳の対象となる著作物は、主に以下のジャンルに分かれ、日本で翻訳出版されるまでの流れは下図のようになります。



### ● 出版翻訳の仕組みと仕事の流れ



すべてのジャンルに共通のハンドブックではリーディングに初めてチャレンジする方にもわかりやすいように、出版翻訳の基礎知識、原書の読み方、メモの取り方、シノプシスのまとめ方のポイントなどを解説しています。

#### ※著作権とは？

出版社が主に著作権エージェントを通じて取得する著作権のことを、通称「著作権」と呼ぶ。

## ■ リーディングの仕事

リーディングとは、原書を読み、あらすじや感想・評価をシノプシス(またはレジюме、こうがい梗概とも呼ばれる)にまとめる仕事で、主に出版社や編集プロダクションが、翻訳者や翻訳学習者に依頼します。また、リーディングを行う人をリーディングスタッフ、またはリーダーと呼びます。

あらすじ、評価、類書との相違点、日本のマーケットに合う作品かなどをまとめたシノプシスをもとに、その本を出版するかどうかを検討するので、リーディングは非常に重要な仕事です。また、出版社からは「シノプシスには、作品の理解力や文章力が如実に表れるので、将来翻訳を依頼するかどうかのひとつの判断基準になる」という声も聞きます。

リーディングの経験を積むと、原書の構造やストーリーの流れ、著者のメッセージなどを正確につかむ力が向上しますので、翻訳も上達していきます。

## ■ 出版市場の動向を知ろう

出版翻訳やリーディングの仕事をするには、市場の動き、各出版社の傾向などを知っておくことが大切です。こうした情報を手に入れるには、主に以下のような手段があります。

### ①書店に赴く

書店の売り場の様子をじっくり観察すると、出版社や書店の動向を知ることができます。たとえば、目立つ場所に平積みになっていれば、今売れ筋の本ということになりますし、ポスターやポップを見れば、出版社や書店が力を入れている本がどれかもわかります。

また、先週平積みだったものが、今週は棚に1冊しかないといったように、書店の商品展開はめまぐるしく変わります。そのため、書店での取扱期間が長い書籍はよく売れているということになります。こうした本の売れ行きについてもチェックしておきましょう。

## ■ シノプシスのまとめ方

シノプシスを作成するにあたって重要なことは、編集者がその作品を翻訳出版するか否かの判断材料にできるよう、作品の内容を正確かつ簡潔に伝えることです。客観的に読んで、日本で翻訳出版する際にマイナス要素になると感じた点があれば、具体的に書くことが求められます。

### ●シノプシスに盛り込むこと(一般例)

- 原題
- 訳題(自分なりに検討してつけた仮タイトル)
- 出版社名
- 出版年(初版が出た年)
- 著者名
- 著者のプロフィール

原書に掲載されている情報や、インターネットなどで調べてわかることを併記。

たとえば、代表作や日本で翻訳出版された作品の情報、受賞歴、本国での評価など。

- 総ページ数
- 概要(本の背表紙にあるような作品の簡単な紹介文)
- 目次(ノンフィクションのみ)
- 主な登場人物(ビジネス書や実用書などの場合は不要)
- あらすじ

シノプシスを読んだ人がストーリーを正しく理解できることが大切。読み手への伝わりやすさを優先するため、ストーリーの順番を多少入れ替えても良い。また、一人称視点で書かれている作品のあらすじは、一人称視点でも三人称視点でも構わないが、どちらの視点で書かれた作品なのか、シノプシスに含めておくと良い。

#### • 所感

感想だけではなく、市場性、類書との比較、ターゲットとなる読者、そのほか特記事項などあれば盛り込むと良い。

# リーディング講座

ロマンス

# ROMANCE



●執筆講師  
中谷 ハルナ  
Haruna Nakatani

文芸翻訳家。「ベアード・トゥ・ユー」シリーズ(集英社クリエイティブ)、『駆け引きはスベドの夜に』『告白はスイートピーの前で』(ヴィレッジブックス)など訳書多数。

## II はじめに

わたしがリーディングや翻訳作業を通じてロマンス小説とかかわるようになって、20年以上になります。ここでは、そのあいだの経験をもとに、みなさんがロマンス小説のリーディングをするときに知っておくべきこと、参考になりそうなことを、できるだけ具体的に書いてみたいと思います。

わたしの場合、ロマンス小説にかかわる初めての仕事がリーディングでした。いっしょに翻訳の勉強をしていた仲間から、ロマンス小説のリーディングのトライアルがあるので、いっしょに受けてみないかと誘われたのがきっかけでした。翻訳の勉強を始めて2年目くらいだったでしょうか。当時のわたしたちは、翻訳にかかわる仕事、翻訳につながりそうな仕事ならどんなものでもやりたい!と必死でした。わたしはいつか小説を訳したいと夢みていましたが、そのころはジャンルを問わず、新聞記事、雑誌記事、コンピュータのマニュアルなど、さまざまな翻訳の仕事のトライアルを受けました。が、結果はすべて不合格。そんなときでしたから、降ってわいたような話にも二もなく飛びつきました。そして、「トライアル代わりにとりあえず1冊、リーディングを」と手渡されたのが、ノーラ

ジャンルの特徴、読んでおきたい参考図書、執筆講師のアドバイスなどが書かれています。まずは「ロマンス」というジャンルの理解を深めてから、課題作品を読み始めましょう。

の翻訳がやりたい」「ロマンス小説も訳してみたい」などと、本気で考えていたのですからいい気なものです。本講座で初めてロマンス小説に接する方もいらっしゃるでしょうが、これをきっかけに具体的な関わり合い方がわかれば、いまはそれで充分だと思います。まだまだこれからです。がんばりましょう。

さて、初めて読んだ『Rebellion』ですが、これが抜群におもしろかった。ロマンス小説って、こんなにおもしろかったんだ!と驚いたのを覚えています。ノーラ・ロバーツの名も忘れ得ぬものになりました。いつかノーラ・ロバーツの作品を訳せたらどんなにいいだろう、と思い、機会あるごとに「ノーラはいい、ノーラはいい」と言っていたら、思いがけず、彼女の作品を訳す機会にも恵まれましたが、それは数年後の話です。

幸い、トライアルには合格し、月に1冊から多いときは3冊、1年半ほどリーディングの仕事が続けました。その後、ロマンス小説の翻訳をするようになって、定期的にロマンス小説のリーディングをすることはなくなりましたが、